明日香村

「人口ビジョン」

「総合戦略」

平成28年2月

奈良県　明日香村

明日香村人口ビジョン・明日香村総合戦略

目　次

はじめに・・・ 1

第１章　人口ビジョン
１　明日香村人口ビジョンの位置付けと対象期間
（１）明日香村人口ビジョンの位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（２）明日香村人口ビジョンの対象期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（３）国の長期ビジョン（まち・ひと・しごと創生長期ビジョン）・・・・・・・・・ 2

２　人口の現状分析
（１）年齢別人口・・4
（２）人口の推移・・5
（３）人口構成の変化・・・6
（４）人口の動態・・7

３　過去の推移に基づく将来人口の推計と分析
（１）過去の推移に基づく将来人口の推計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（２）過去の推移に基づく将来人口構成の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

４　明日香村の目指すべき人口の将来展望
（１）将来展望の考え方・・11
（２）具体的な目標設定・・11
（３）明日香村の目指す人口の将来展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

第２章　総合戦略
１　基本的な考え方
（１）基本的な考え方・・・13
（２）計画期間・・・13

２　明日香村総合戦略
大目標１　暮らしたくなる村づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
大目標２　働きたくなる村づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
大目標３　魅力を磨きつづける・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

３　点検・評価・改善などのＰＤＣＡのしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

巻末資料
１　策定経緯・・25
２　明日香村総合戦略検討会議委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

はじめに

■明日香村の概況

・明日香村には、重要な価値を持つ文化財が数多くあります。

明日香村には、飛鳥京跡、石舞台古墳や高松塚古墳、キトラ古墳、また歴史を物語る様々な寺跡など貴重な文化財が豊富にあります。古都を守るための規制により、美しい自然環境と集落等の人文的景観の総体である歴史的風土の保存の結果、日本国家形成過程を物語る文化財が数多く存在し、全国的にも高い知名度を誇っています。

・明日香村は、地理的環境（条件）に恵まれています。

関西国際空港から約１時間で世界と繋がっているほか、大阪の中心部や奈良市、京都まで約１時間の圏内にあり、通勤圏内であることに加えて、観光客の誘致にも優位性があります。

・外国人観光客が増加しています。

外国人観光客は、日本国内や関西圏、また近隣の奈良市での増加だけでなく、明日香村でも農家民泊利用や観光目的で増加しています。

・少子高齢化が進んでいます。

日本全国で少子高齢化が進んでいますが、地理的に都市圏域といえる明日香村での少子高齢化が顕在しています。

■近年の動向

・ＩＣＴ（情報伝達技術）が進歩しています。

ほとんどの人やモノがネットワークで繋がり、ＩＣＴの劇的な進歩をはじめとする技術革新が進展しています。

・ライフスタイルが多様化しています。

世の中のライフスタイルは多様化しており、結婚や出産の後も仕事を続けてキャリアを積んでいきたい女性の増加や、退職した後も働き続けたいと考える元気な高齢者が増加しています。

・田園回帰時代を迎えています。

金銭に換算できない豊かさとして、自然や地域に根付いた生活を求める地域指向や、都市住民の間に田園回帰を希望する人も少なくありません。

このように、人々の生活観や価値観、就業や転居等、様々なライフステージにおける多様なニーズを実現しやすい環境を整備することが、明日香村にも求められています。

■明日香村人口ビジョン・総合戦略の策定

・豊かな歴史と文化に恵まれたこの地に生まれ、あるいは自ら居を構えた村民が、しっかりと満ち足りた生活を送れることが、特別な「明日香村」の基礎になることは言うまでもありません。

・他方で村の人口は、我が国全体の趨勢にも増して、減少を続けています。過去の推移に基づく将来人口の推計に基づくと、2060 年には約 2,000 人にまで減少するという危機的な状況（国立社会保障・人口問題研究所による一つの推計結果）を、広く村民で共有する必要があります。

・これを踏まえ、村の存続に必要な人口構成を保つため、明日香村を挙げて取り組む必要のある事項を、明日香村総合戦略として整理しました。

・この総合戦略に基づき、行政だけでなく村民等との幅広い協働による取り組みを進め、ＫＰＩを通じたＰＤＣＡサイクル等による進行管理を行い、将来にわたって明日香村を存続させていくだけでなく、「住みよい」「働ける」「交流」の場づくりを行います。

第１章　人口ビジョン

１　明日香村人口ビジョンの位置付けと対象期間

（１）明日香村人口ビジョンの位置付け

明日香村人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を踏まえ、本村における人口の現状分析を行い、人口に関する村民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

併せて策定する「明日香村総合戦略」において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎として位置付けます。

（２）明日香村人口ビジョンの対象期間

明日香村人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンの期間（平成 72(2060)年）を基本としたうえで、さらに将来的な明日香村の地域の維持を図っていくことを念頭に長期的な視野を持たせます。

（３）国の長期ビジョン（まち・ひと・しごと創生長期ビジョン）

国の長期ビジョンの概要を以下に示します。

◆長期ビジョンの趣旨

2060 年に 1 億人程度の人口を維持することを目指し、日本の人口動向を分析し、将来展望を示す。

◆人口問題に対する基本認識

1. 「人口減少時代」の到来

〇2008 年に始まった人口減少は、今後加速度的に進む。
〇人口減少の状況は、地域によって大きく異なる。
〇人口減少は地方から始まり、都市部へ広がっていく。

2. 「人口減少」が経済社会に与える影響

〇人口減少は、経済社会に対して大きな重荷となる。
〇地方では、地域経済社会の維持が重大な局面を迎える。

3. 東京圏への人口の集中

〇東京圏には過度に人口が集中している。
〇今後も東京圏への人口流入が続く可能性が高い。
〇東京圏への人口の集中が、日本全体の人口減少に結び付いている。

（次ページに続く）

◆今後の基本的視点

1. 人口減少問題に取り組む意識

○人口減少に対する国民の危機感は高まっている。

○的確な政策を展開し、官民挙げて取り組めば、未来は開ける。

○人口減少への対応は、「待ったなし」の課題である。

2. 今後の基本的視点

○3 つの基本的視点（①「東京一極集中」の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決）から取り組む。

○国民の希望の実現に全力を注ぐ。

○若い世代の結婚・子育ての希望に応える。

◆目指すべき将来の方向

1. 「活力ある日本社会」の維持のために

○人口減少に歯止めをかける。

○若い世代の希望が実現すると、出生率は 1.8 程度に向上する。

（※人口動態統計によると 2014 年現在の合計特殊出生率は 1.42 である。）

○人口減少に歯止めがかかると、2060 年に 1 億人程度の人口が確保される。

（※現在の状況で推移した場合、約 8,700 万人まで減少すると見通されている。）

さらに、人口構造が「若返る時期」を迎える。

○「人口の安定化」とともに「生産性の向上」が図られると、2050 年代に実質ＧＤＰ成長率は 1.5～2%程度が維持される。

2. 地方創生がもたらす日本社会の姿

○自らの地域資源を活用した、多様な地域社会の形成を目指す。

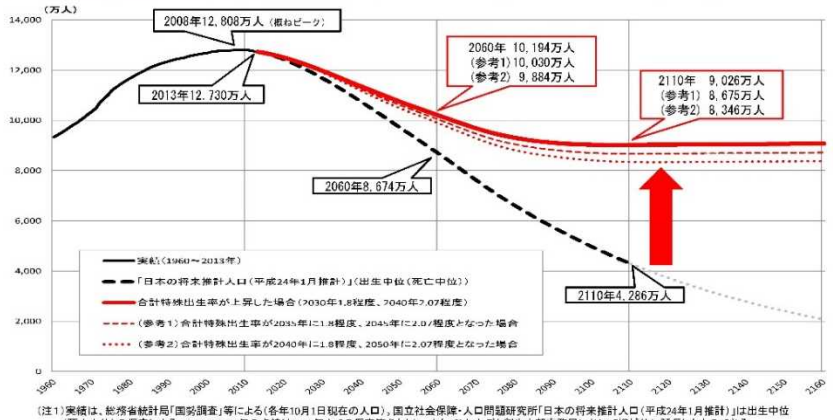
○外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る。

○地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る。

○地方創生は、日本の創生であり、地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし、日本全体を引っ張っていく。

図１．我が国の人口の推移と長期的な見通し

○ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位（死亡中位））によると、2060年の総人口は約8,700万人まで減少すると見通されている。
○ 仮に、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
○ なお、仮に、合計特殊出生率が1.8や2.07となる年次が５年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね300万人程度少なくなると推計される。

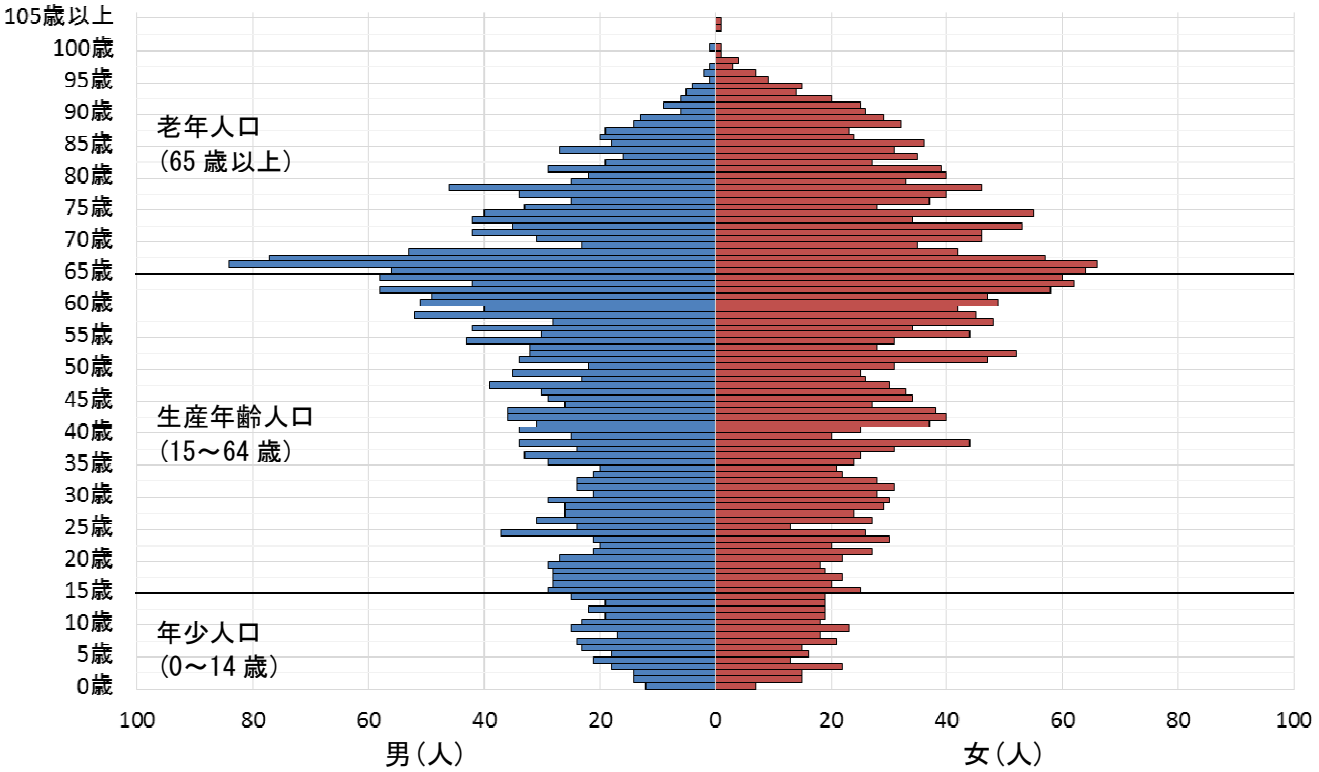


（注1）実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は出生中位（死亡中位）の仮定による。2110～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。
（注2）「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

資料：まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(H26.12.27)

２　人口の現状分析

（１）年齢別人口



資料：明日香村住民基本台帳(平成27年3月31日時点)

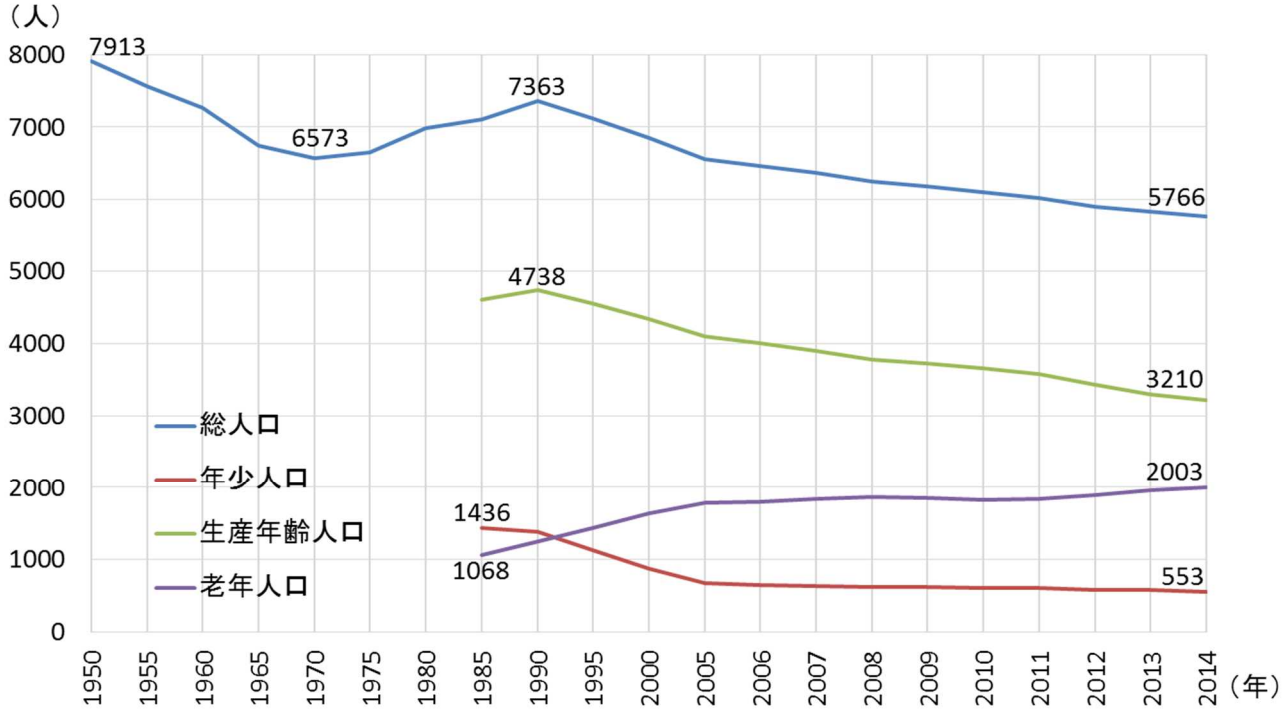
グラフ 2-1　人口ピラミッド(H27.3.31)

□平成 27 年 3 月末時点の明日香村の人口ピラミッドは、第一次ベビーブーム世代（団塊の世代）の層の厚みが大きい形状となっており、人口構成のバランスが悪いことが分かります。

□60 歳以上の人口が多く、若者・子ども世代の人口が少ないことから、少子高齢化が進んでいる状況が分かります。なお、高齢化率※は 34.7%となっており、奈良県(27.4%)及び全国(25.6%)の数値（住民基本台帳 平成 27 年 1 月 1 日時点）より高い値となっています。

※高齢化率とは、65 歳以上の高齢者人口（老年人口）が総人口に占める割合のこと。

（２）人口の推移



資料：国勢調査(1950 年～2000 年)
明日香村住民基本台帳(2005 年～2014 年)

グラフ 2-2　総人口・年齢 3 区分別人口の推移

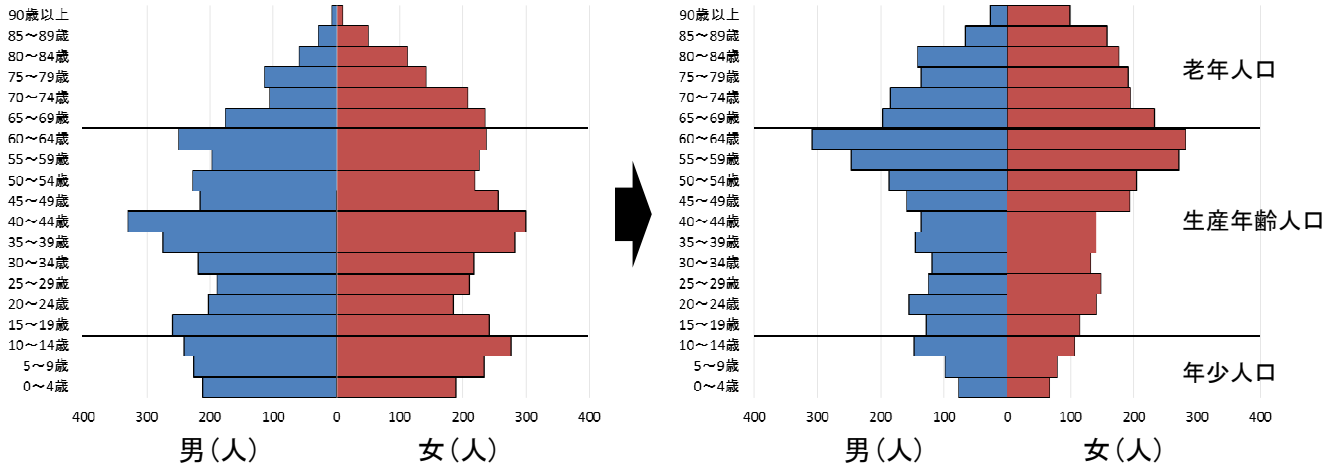
□総人口は、1950 年から 1970 年までの高度経済成長期に大きく減少し、一旦は 1970 年から 1990 年までの安定成長期・バブル成長期には増加に転じ、そして 1990 年以降現在までは減少が続いています。

□年少人口は、1985 年以降減少傾向が続いています。

□生産年齢人口は、1990 年以降減少に転じ、現在まで減少が続いています。

□老年人口は平均寿命が延びたこと等により、現在まで増加傾向が続いており、1995 年以降には年少人口を上回っています。

（３）人口構成の変化



資料：国勢調査

グラフ 2-3　人口ピラミッド（左：1990 年、右：2010 年）

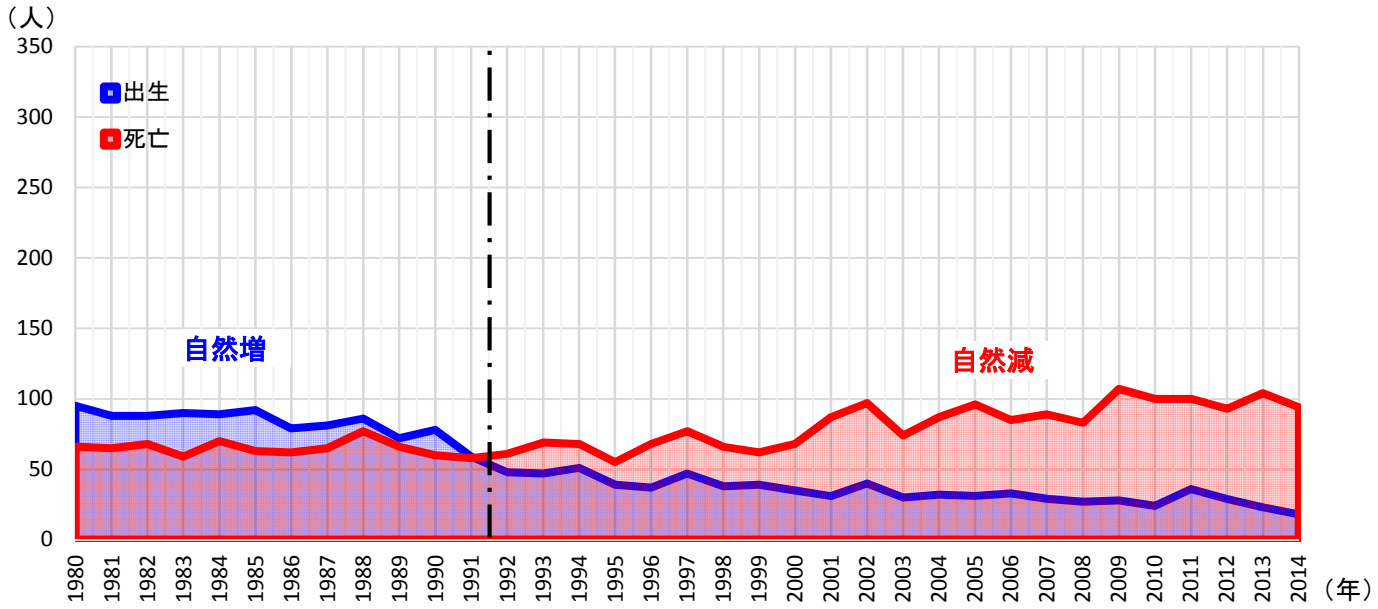
□1990 年と 2010 年の人口ピラミッドを比較すると、形状が「釣り鐘形」から変化し、第一次ベビーブーム世代（団塊の世代）の層の厚みが大きい形状となっています。

□少子高齢化に伴い、老年人口が増加している一方で、年少人口が減少している様子が分かります。

□高齢者が増えることで、福祉や医療などにかかる費用が増大し、働き手・子育て世代と子どもが減ることで、経済・地域社会の衰退、村の将来の存続が懸念されます。

（４）人口の動態

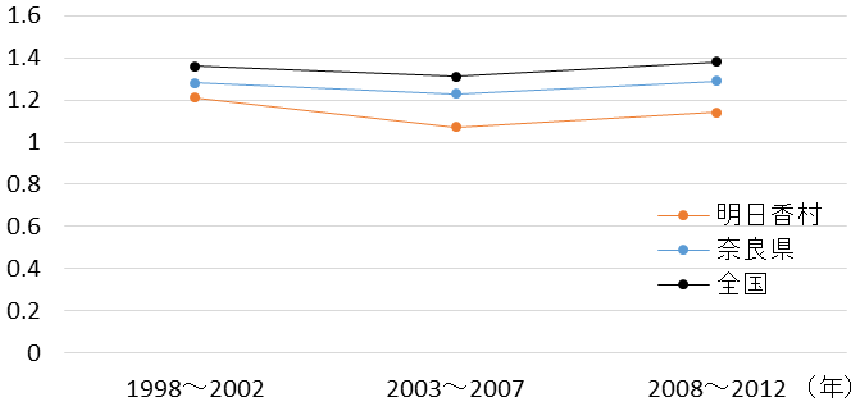
１）自然動態（出生・死亡に伴う人口の動き）の推移



資料：明日香村住民基本台帳

グラフ 2-4　自然動態の推移

□1980 年から 1991 年までは出生数が死亡数を上回っており、自然増の状態となっていました。
□1992 年以降現在まで死亡数が出生数を上回っており、自然減の状態が続いています。
□今後も自然減の状態が続いていくことが想定されます。



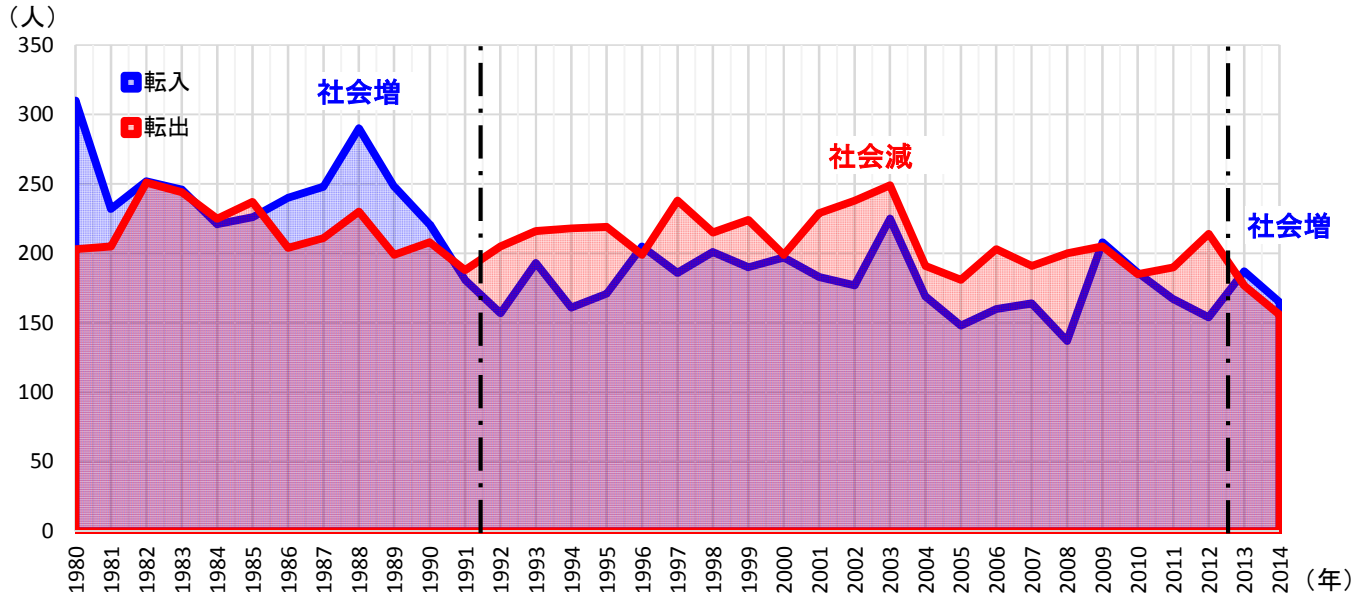
資料：人口動態保健所・市区町村別統計

グラフ 2-5　合計特殊出生率の推移

□2008 年から 2012 年の明日香村の合計特殊出生率※は 1.14 となっており、奈良県(1.29)及び全国(1.38)の数値より低い値となっています。

※合計特殊出生率とは、一人の女性が一生の間に生むとしたときの子どもの数(推定)に相当し、15 歳から 49 歳の女性の年齢毎の出生率を合計した数字です。

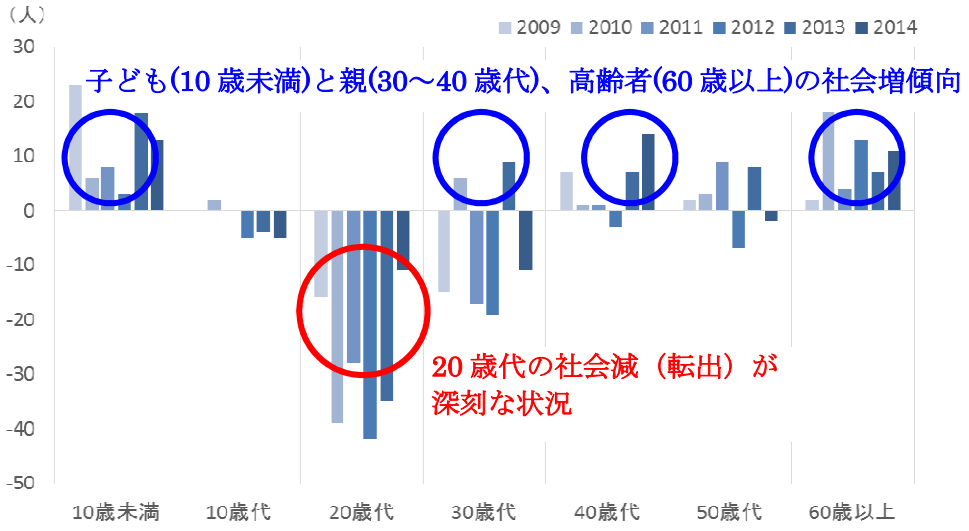
２）社会動態（転入・転出に伴う人口の動き）の推移



資料：明日香村住民基本台帳

グラフ 2-6　社会動態の推移

□1980 年から 1991 年までは概ね、転入数が転出数を上回っており、社会増の状態となっていました。
□1992 年から 2012 年までは概ね、転出数が転入数を上回っており、社会減の状態となっていました。
□2013 年及び 2014 年は、若干ながら再び社会増の状態となっています。



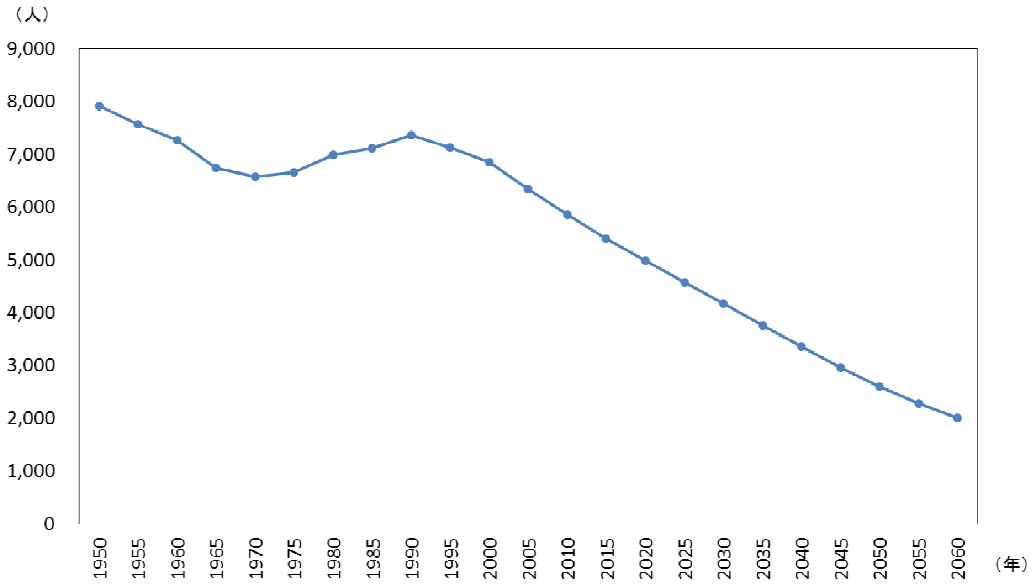
資料：明日香村住民基本台帳

グラフ 2-7　年代別社会増減の状況

□年代別社会増減の状況を見ると、20 歳代の若者世代の社会減の状態が続いている一方、30～40 歳代の親世代と 10 歳未満の子ども、60 歳以上の高齢者は社会増の状態となっている傾向が見られます。

３　過去の推移に基づく将来人口の推計と分析

（１）過去の推移に基づく将来人口の推計



資料：国立社会保障・人口問題研究所

グラフ 3-1　総人口の推移と将来推計

【将来人口推計の概要（国立社会保障・人口問題研究所準拠）】

・平成 22(2010)年国勢調査の人口を基準人口とした上で、主に平成 17(2005)年から平成 22(2010)年の人口の動向を勘案し、5 年ごとの将来の人口を推計。

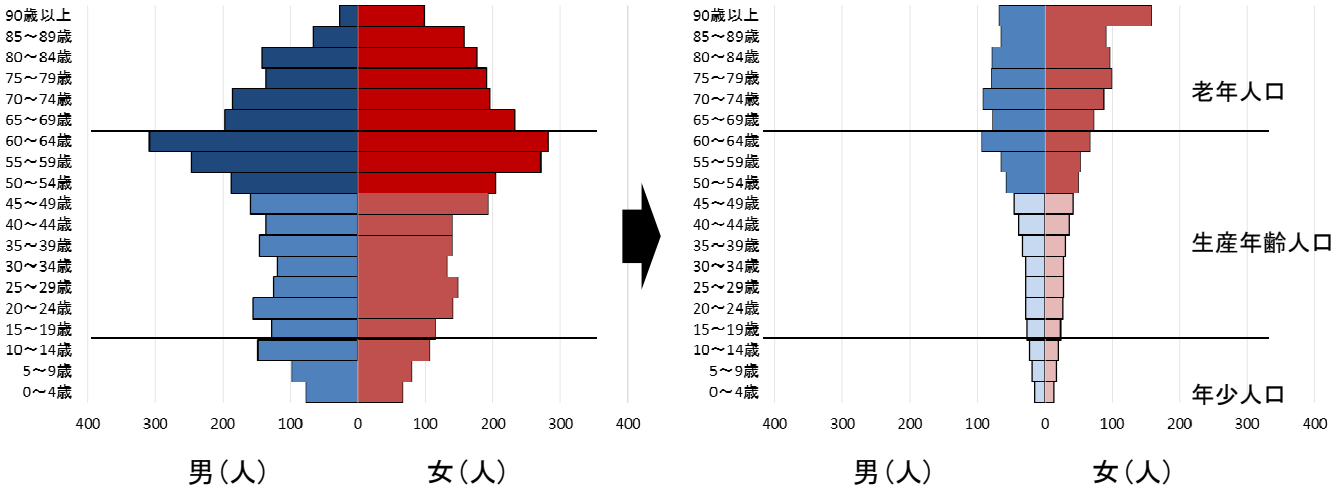
・5 歳以上の人口推計は、将来の生残率※1 と将来の純移動率※2 の仮定値により推計。

・0～4 歳人口の推計は、生残率と純移動率に加えて、子ども女性比※3 及び 0～4 歳性比※4 の仮定値により推計。

※1 生残率とは、年齢 x 歳の人口が、5 年後に x+5 歳になるまで死亡しない確率のこと。
※2 純移動率とは、1,000 人当たりの転出入の数を割合として算出した値のこと。
※3 子ども女性比とは、15～49 歳女性人口に対する 0～4 歳人口の比のこと。
※4 0～4 歳性比とは、0～4 歳の人口について、女性の数を 100 とした場合の男性の数の比を指数で表したもの。

□国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計では、2010 年以降も、人口減少が続き、総人口は 2040 年には約 3,350 人、2060 年には約 2,000 人にまで減少すると推計されています。

（２）過去の推移に基づく将来人口構成の変化



資料：国勢調査　　資料：国立社会保障・人口問題研究所

グラフ 3-2　人口ピラミッド（左：2010 年、右：2060 年）

□2010 年と将来推計となる 2060 年の人口ピラミッドを比較すると、少子高齢化の状況がさらに進行し、総人口が減少することに加えて、特に働き手・子育て世代と子どもの減少が著しい状況が想定されます。

□現在の状況が進むと、経済・地域社会の衰退、村の将来の存続が懸念されます。

4　明日香村の目指すべき人口の将来展望

（１）将来展望の考え方

少子高齢化が進み、将来人口が減少していくことが推計結果として示されている中、明日香村の歴史的景観を守り、地域社会を維持していくために、まず空き家の活用や新住宅地の整備による人口増加の受け皿を確保していく必要があります。同時に、若者や親子連れ層をターゲットとして、村外からの転入を促し、転出を抑制する施策を戦略的に講じることが必要です。このように、ハード・ソフトの一体的な対策により、高齢者から若者世代・子どもまでバランスのとれた人口構成を保つことで、将来にわたって一定人口を維持していく必要があると考えています。

そのために、現状の**「転入・転出の状況を改善（社会増をふやす）」**することを目標とし、

特に、◆「30 歳代＋子ども」の定着・受入を積極的に進める

◆30 歳代の予備軍である「20 歳代」の定着・受入を進める

ことにより、将来的に 3,200～4,000 人程度の人口を目指します。

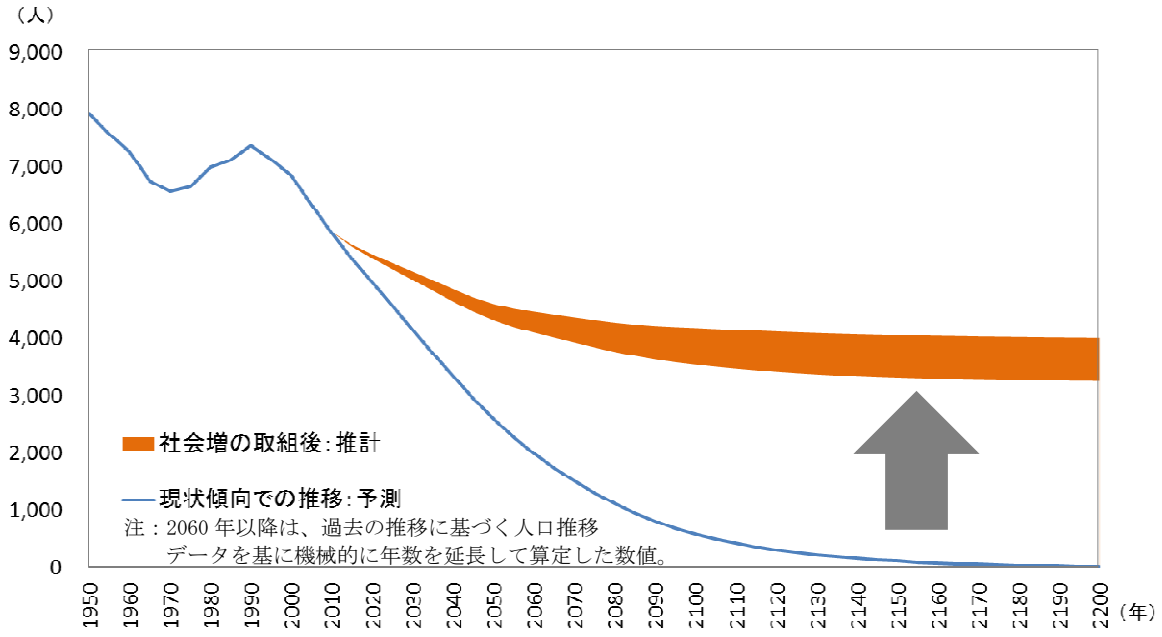
※20～30 歳代の人口が増加していくことで、合計特殊出生率は、自ずと現況より改善されるものと想定します。

（２）具体的な目標設定

具体的な目標値として、下記のとおり設定します。

『現状の転入・転出の状況にプラスして、転入増もしくは転出減を毎年 30-40 人上乗せする』

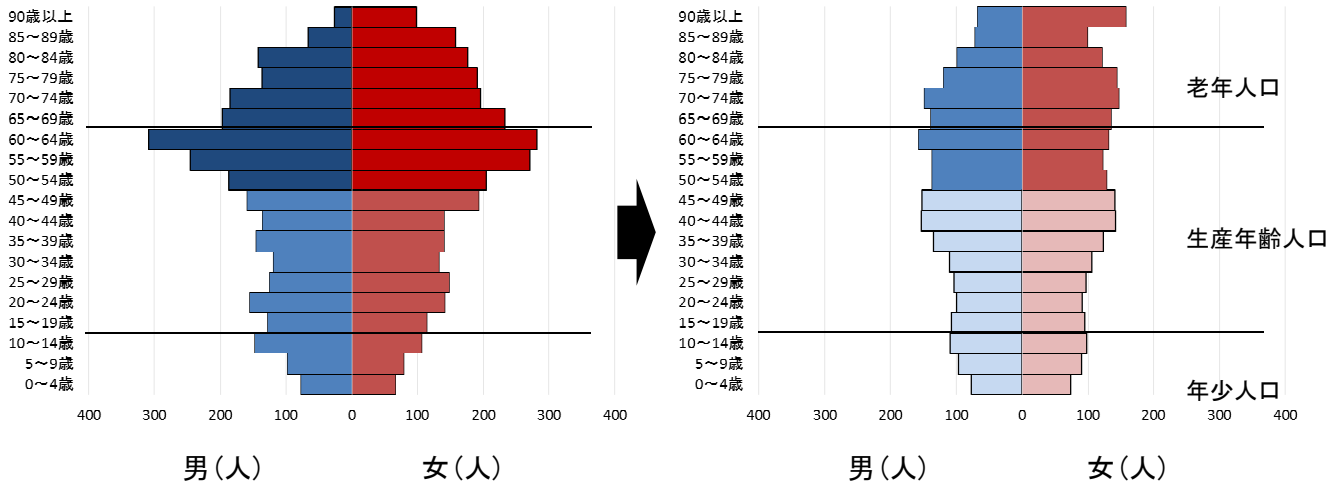
（３）明日香村の目指す人口の将来展望



グラフ 4-1　人口の将来展望

転入減・転入増の状況を改善する村の施策を推進して上記の目標値を達成することで、**『将来的に、3,200～4,000 人程度の人口で安定することを目指す』**ことになります。

なお、本ビジョンの対象期間としている 2060 年には、「4,100～4,500 人程度の人口を確保」することを目指します。



資料：国勢調査

グラフ 4-2　人口ピラミッド（左：2010 年、右：2060 年）

□2010 年と将来推計となる 2060 年の人口ピラミッドを比較すると、総人口は減少するものの、働き手・子育て世代と子どもの人数は一定数確保され、バランスのとれた人口構成になるものと想定されます。

【備考】グラフ 4-1 及びグラフ 4-2 の作成には、下記条件①かつ②を用いた。

※出生率は、1.14（2008～2012 年の平均値：明日香村）から 1.42（2014 年の全国平均値）までの幅を持って推移していくと想定し、将来人口についてもオレンジ色の幅（グラフ 4-1 参照）を持った将来人口として推計を行っている。

条件①「30 歳代の親子連れ」の転入増（＋）及び転出減（－）の合計人数を＋21 人とする。

（＋21 人の内訳
毎年、35～39 歳男女：6 人＋5～9 歳男女：3 人
毎年、30～34 歳男女：8 人＋0～4 歳男女：4 人）

条件②「20 歳代の若者」の転入増（＋）及び転出減（－）の合計人数を＋14 人とする。

（＋14 人の内訳
毎年、20～24 歳男女：6 人＋25～29 歳男女：8 人）

第２章　総合戦略

１　基本的な考え方

（１）基本的な考え方

人口ビジョンの目標達成を目指して、以下の３大目標に基づく施策を効果的に実施します。

◆人口ビジョンの目標：将来にわたって人口 3,200～4,000 人程度を維持していきます。
・30 歳代（＋子ども）の定着・受け入れを積極的に進める
・30 歳代の予備軍である 20 歳代の定着・受け入れを進める

→社会増による人口安定化のため、暮らし・仕事・村自体の、魅力の向上が必要です。

総合戦略の３大目標

大目標１　暮らしたくなる村づくり

ライフスタイルの多様化に対応し、人々の生活観、価値観、就業等の様々な場面での希望を実現しやすい環境づくりを行います。

大目標２　働きたくなる村づくり

村の魅力を充分に活かして、事業の拡充や、起業を行いやすい環境づくりを行い、働く場をつくります。

大目標３　魅力を磨きつづける

文化財も含めた恵まれた資産や立地を活かし、外国人も含めた交流人口の増加を図ります。

（２）計画期間

平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間とします。

２　明日香村総合戦略

大目標１　暮らしたくなる村づくり

ライフスタイルの多様化に対応し、人々の生活観、価値観、就業等の様々な場面での希望を実現しやすい環境づくりを行います。

［居住・定住について］

1	2	3
新たな市街地形成による住まいづくりを推進します。	市街化調整区域内の既存集落への住まいづくりを推進します。	空き家対策を一層充実させます。

背　景

- ✓ 明日香村は、全域がいわゆる「明日香法」による開発規制の対象となっており、すべての人がこの影響と恩恵について理解できるよう努め続けることが必要です。
- ✓ 一方で、新たに市街地形成を実施できる箇所は少ないため、効果的な実施が必要です。
- ✓ また、市街化調整区域内であっても、制度に適合する住まいづくりを促進する必要があります。
- ✓ さらには、Ｕ・Ｉターンといった移住や、既存住宅及び空き家の現状をしっかりと把握した上で、関連する施策をさらに充実させていくことが必要です。

［交通・基盤について］

1	2	3
住民と観光客の交通利便性を向上します。	安全、安心なまちづくりを進めます。	村民のニーズに沿った公共施設のあり方を確立します。

背　景

- ✓ 自家用車の普及や人口の減少等により村内の公共交通「かめバス」の利用者数が年々減少している一方で、高齢者等の交通弱者や通勤･通学のための公共交通の維持確保が課題となっており、公共交通体系の見直しにより住民の交通利便性を向上させていくことが必要です。（平成 27 年 10 月から、新しいダイヤによる「赤かめ周遊バス」の実証運行及び「明日香金かめ乗合交通」の実証運行を実施しています。）
- ✓ また、安全、安心なまちづくりの基盤となるインフラ（上下水道や道路、橋梁等）の整備、耐震化及び老朽化への対応が必要です。さらには、近年の記録的豪雨の発生や、いつ起きてもおかしくないとされる東海地震及び東南海・南海地震が懸念される中で、各大字での自主防災組織の組織化や、防災拠点としても機能する役場等の公共施設の整備を進めていくことが必要です。

［必要な取組、ＫＰＩ※］

※ ＫＰＩとは、Key Performance Indicator（重要業績評価指標）の略で、目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

項目	必要な取組	ＫＰＩ（目標）
居住・定住	○檜前地区の公有地等を最大限に活用した新たな市街地の形成 ○都市計画法第 34 条 11 号に適合した開発の促進 ○きめ細かな空き家対策制度の充実と、そのための体制整備	・新規住宅件数 ［H31 までに 40 戸］ ・空き家バンク成約数 ［現状：約 10 件→H31：20 件］ ・移住窓口相談件数（空き家バンク及び産業活性化バンク利用者の登録件数） ［現状：約 100 件→H31：200 件］
交通・基盤	○村内公共交通機関の利用促進 ○各大字住民による自主的な防災活動の組織化促進 ○光ファイバー網整備にあたり障害となる木製電柱の撤去 ○電線の地中化（無電柱化） ○橋梁等インフラの長寿命化 ○安全、安心で暮らしやすい生活基盤の整備（上水道の耐震化、水洗化の推進） ○道路（都市計画道路）の整備 ○村民のニーズに沿った公共施設（役場・図書館等）のあり方の確立 ○住民サービスの向上（コンビニでの収納や住民票等の発行サービス）及び窓口対応の向上	・赤かめ周遊バス利用者数（年度あたり） ［現状：5 万 4 千人→H31：5 万 4 千人 現状維持］ ・自主防災組織の設置率 ［現状：73%→H31：100%］ ・無電柱化に着手済みの路線数 ［現状：4 路線→H31：6 路線］ ・橋梁の長寿命化整備済件数 ［現状：2 橋→H31：5 橋］ ・上水道耐震化率 ［H26：50.2%→H31：52.2%］

［教育・子育てについて］

1	2	3
魅力ある教育施策により、子育て世代が移住・定住への共感を得る環境をつくります。	生涯スポーツの推進及び生涯学習機会を充実させます。	ファミリーサポート等により子育て環境の向上を目指します。

背　景

- ✓ 村立の幼稚園･小学校･中学校（他に私立保育園）が１箇所ずつあり、「幼小中一貫教育」により、カリキュラムや教師の連携や施設の一体利用に向けた取り組みを進めています。また大都市圏にありながらも自然が豊かで、歴史的風土にも囲まれた特色ある教育環境を村の魅力と考えている人々も多いことから、これらをＰＲしていくことが必要です。
- ✓ さらに、住民の生きがいづくりなど生涯スポーツや生涯学習機会の提供が必要です。一方で、子育て世帯にとって、明日香村に暮らし続けたくなるような、各種支援を一層充実させていくことが必要です。

［健康・福祉について］

1	2
予防医学に基づいた更なる健康づくりを推進します。	地域と地域、人と人を繋げた拠点づくりを進めながら、地域福祉の向上を推進します。

背　景

- ✓ 明日香村では、奈良県立医科大学と協定を締結し、予防医学の推進を図るために 60 歳以上の村民に健診を受ける機会を増やし、魅力ある検査項目を付加することで、村民の健康づくりの意識向上を図っています。このことにより、いわゆる「二次予防」の健診体制の確立は図られてきましたが、さらに働き盛りの世代へと拡充し、併せて村民による健康づくりへの行動を促す「一次予防」体制の確立を目指していくことが必要です。
- ✓ また高齢化が進む状況において、支援を必要としている高齢者を元気な高齢者や地域で支える仕組みを確立し、地域福祉の向上を推進していくことが必要です。

注：一次予防＝病気の発生を未然に予防するため生活習慣改善に繋げる取り組み。
　　二次予防＝病気の重症化を予防するため早期に発見し治療に繋げる取り組み。

［必要な取組、ＫＰＩ※］

※ ＫＰＩとは、Key Performance Indicator（重要業績評価指標）の略で、目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

項目	必要な取組	ＫＰＩ（目標）
教育・子育て	○子どもの学習支援（言語力、英語、郷土学習など明日香村独自の教育内容の充実を含む） ○教育環境の向上（エアコン設置）とＰＲ（幼稚園・小学校・中学校のホームページの充実等） ○学校教育施設の充実 ○生涯学習機会の充実 ○総合型スポーツクラブ「楽スポあすか」の推進 ○子育て世帯に対する支援制度の充実（預かり保育の拡充） ○ファミリーサポート事業等による保育支援の充実 ○子育て世帯等の経済的負担の軽減	・授業がよくわかると回答した子どもの割合※ ［（小学校）現状：92.5％→H31：95％］ ［（中学校）現状：68％→H31：78％］ ・村の教育への保護者の満足度※ ［（幼稚園）現状：80％→H31：85％］ ［（小学校）現状：90％→H31：95％］ ［（中学校）現状：78％→H31：83％］ *※上記２項目は「全国学力・学習状況調査」「学校評価アンケート結果」等による。* ・総合型スポーツクラブの会員数 ［現状：約 536 人→H31：600 人］ ・保健師等に気軽に子育てを相談できる人の割合 ［現状：76%→H31：100%］ ・各種子育て支援へのサービス提供登録者数 ［現状：19 人→H31：40 人］ ・村独自の負担軽減事業の拡充 ［現状：4 事業⇒H31：6 事業］
健康・福祉	○地域医療連携による各種健診事業の充実 ○一次予防事業を推進するための環境整備（「健康ステーション」開設など） ○介護予防・生活支援総合事業の推進	・「特定健診」の受診率 ［H26：36％→H31：40％］ ・「健康ステーション」における健康づくり実践に登録している村民の数 ［現状：実施なし→H31：500 人］ ・要介護認定率（1 号）の割合 ［H26：16.7%→H31：18%以下］ ・高齢者サロン事業の実施箇所数 ［現状：4 箇所→H31：20 箇所］

大目標２　働きたくなる村づくり

村の魅力を充分に活かして、事業の拡充や、起業を行いやすい環境づくりを行い、働く場をつくります。

［商工業について］

1	2	3
誘致活動を行い、新たな企業を誘致します。	起業を行いやすい環境づくりを行います。	空き家・既存の建物を活用したビジネス利用を進めます。

背　景

- ✓ 村内での仕事場、雇用の機会が不足しているため、まずは村役場と関係組織が連携し、企業誘致や新規事業者に対する起業サポートの体制整備を進めていくことが必要です。
- ✓ 起業環境の整備としては、起業相談窓口の充実が挙げられます。これまで、飲食及び物販については、チャレンジショップ「ASUCOME」が一定の成果を上げてきましたが、これらの取り組みの堅持に加えて、村内の空き家や既存建物を活かし、飲食や物販以外も含めたビジネス利用（サテライトオフィスの誘致等）の促進を進めていくことが必要です。

［農林業について］

1	2	3	4	5
新規就農者や定年帰農者の受け入れを進め、担い手の確保を進めます。	農作業負担の少ない農作物の産地化を進めます。	直売所における年間を通じた販売体制の整備や集出荷の仕組みづくりを進めます。	野生鳥獣害対策を進めます。	山林の整備を進めます。

背　景

- ✓ 農業従事者の減少と高齢化の進行による担い手の不足が深刻化しているとともに、農地の多くが中山間地域に広がっているという地形上の特徴からも明日香村においては農地の集約化が難しく、生業としての農業を成り立たせることが難しい現状です。そこでまず、担い手の確保のため、若い新規就農者はもちろんのこと、元気な定年帰農者の受け入れを進めていくことが必要です。
- ✓ また、特色ある農産物や加工品の研究も求められる中、作業負担が少なく、近畿圏内では産地化されていない省力化野菜（ツルムラサキ、タアサイ等）の産地化を目指す取り組みも推進しています。
- ✓ 一方で、農業従事者の作業意欲を低下させている原因でもある野生鳥獣被害への対応を進めていくことが必要です。
- ✓ また、手入れの行き届かない山林が増えているため、間伐等の整備や利活用を進めていくことが必要です。

［必要な取組、ＫＰＩ※］

※ ＫＰＩとは、Key Performance Indicator（重要業績評価指標）の略で、目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

項目	必要な取組	ＫＰＩ
商工業	○企業ないし事業所の定期的な誘致活動 ○産業活性化バンクの活用や拡充等による、空き家や古民家のビジネス利用支援や施設整備 ○起業相談対応窓口の充実、ASUCOME の魅力化による入居事業者および卒業生の確保 ○明日香村商工会の体制整備支援 ○飛鳥ブランドのプロモーション	・新規事業所開設数（年度あたり） ［現状：0 箇所→H31：2 箇所］ ・空き家を活用した事業所整備（年度あたり） ［現状：0 箇所→H31：1 箇所］ ・ブランドプロモーション（年度あたり） ［現状：0 回→H31：5 回］
農林業	○新規就農者及び定年帰農者の受け入れによる担い手の確保 ○法人・営農団体の育成・支援 ○持続可能な省力化野菜の産地化 ○直売所における年間を通じた販売体制整備、集出荷の拠点整備 ○野生鳥獣害対策の実施 ○民有林の整備	・農業粗生産額（年度あたり） ［現状:7.3 億円→H31:7.3 億円　現状維持］ ・経営耕地面積 ［現状：230ha→H31：230ha　現状維持］ ・新規就農者数（年度あたり） ［現状：2 人→H31：3 人（5 年間で 15 人）］ ・持続可能な省力化野菜の作付面積 ［現状：0.5ha→H31：3ha］ ・有害鳥獣駆除の従事者数 ［現状：10 名→H31：20 名］ ・民有林の整備面積（毎年） ［現状：30ha→H31：35ha］

［新しいむらづくり・取り組みについて］

1	2
新たな主体による取り組みを進め、シルバー人材の活用や住民による活性化組織を構築します。	ふるさと明日香応援寄付金（ふるさと納税）を活用したむらづくりを進めていきます。

背　景

- ✓ 昨今の地域課題は多岐にわたることから、行政だけでなく地域住民や企業・ＮＰＯ等が積極的に主体となることで課題解決を目指す新しい地域づくりを試みる地域が増えています。明日香村でも、一例としてシルバー人材センターの再構築に取り組みます。（これは、少子化による若年労働力不足により、社会的にも高齢者の就労・雇用に対する要請が今後増加していくことを踏まえたものです。高齢者にとっての仕事は、経済的な意味だけでなく、生きがいや健康保持にとっても重要な役割をもっていることから、高齢者が長年培ってきた知識や能力の活用と生きがいの確保という効果も期待されます。）
- ✓ また、「ふるさと明日香応援寄付金」（ふるさと納税制度）を活用した新しい取り組みについても進め、更なる村のファンづくりを図ります。

［必要な取組、ＫＰＩ※］

※ ＫＰＩとは、Key Performance Indicator（重要業績評価指標）の略で、目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

項目	必要な取組	ＫＰＩ
新しいむらづくり・取り組み	○シルバー人材センターの再構築 ○ふるさと明日香応援寄付金の活用	・シルバー人材センター登録人材数 ［H28/1：起ち上げ→H31：100 人］ ・ふるさと明日香応援寄付金（ふるさと納税）の件数（年度あたり） ［H26：58 件→H31：100 件］

大目標３　魅力を磨きつづける

文化財も含めた恵まれた資産や立地を活かし、外国人も含めた交流人口の増加を図ります。

［歴史・文化・景観と、魅力のＰＲについて］

1	2	3	4
世界に誇る明日香村の歴史・文化資源の価値を広く伝えていくため、周辺地域とも連携して、新たな見える化・ストーリー化を推進します。	国内だけでなく世界への情報発信を進め、さらに多くの人に明日香村の魅力を知ってもらう機会を増やします。加えて、企業や周辺地域との具体的な連携を増加させます。	景観形成のトップランナーとして、修景等の美しい村づくりをさらに推進します。	観光関係をはじめとする多方面にわたる関係者が連携できる仕組みづくりを進めます。

背　景

- ✓ 明日香村には、飛鳥京跡、石舞台古墳や高松塚古墳、キトラ古墳、歴史を物語る様々な寺跡など貴重な文化財が豊富にあり、明日香村最大の魅力となっています。平成 27 年には、周辺地域とともに日本遺産に認定されており、これに基づく歴史展示の見える化・ストーリー化を進めること等により、将来的な世界遺産登録に向けた取り組みを行っていくことが必要です。
- ✓ 一方で、国民共有の財産である歴史的風土を守っていくために、修景等による景観保全が必要です。
- ✓ 八雲琴の復元等、村民による近世（江戸時代）の歴史見直しも進んでおり、明日香村の魅力を国内外の人々に知ってもらうための情報発信の充実と、観光関係をはじめとする多方面にわたる関係者が連携できる仕組みづくりを進めていくことが必要です。

［来訪者の受け入れ体制について］

1	2	3
オリンピック・イヤーも見据え、外国人の受け入れ体制も充実させます。	宿泊施設の増加と、民泊による受け入れを進めます。	近鉄飛鳥駅前を、鉄道利用者以外にとっても、村の玄関口となるよう整備します。

背　景

- ✓ 昨今の円安の影響もあり、日本を訪れる訪日外国人の数は力強い伸びを示しており、今後も、平成 28 年の伊勢志摩サミット、平成 31 年のラグビーワールドカップ、平成 32 年のオリンピック・パラリンピック等を経て、ますます増加していく可能性があります。この恩恵をとりこぼさずリピーターにつなげていけるよう、国内旅行者と併せて、訪日客にも満足してもらえるような仕組みづくりが必要です。
- ✓ 一方で、明日香村は、宿泊施設の少ない奈良県の中でも、とりわけ宿泊客室数が少なく、村内での経済波及効果に至っていません。そのため、新たなタイプの宿泊施設や、気軽に泊まれるゲストハウスの開設を進めるとともに、民泊の受け入れも進めていく必要があります。
- ✓ また、近鉄飛鳥駅前の魅力を高め、奈良県中南部の玄関口となりうる明日香村の地理的利点を最大限に生かせるような整備を進めていくことが必要です。

［必要な取組、ＫＰＩ※］

※ ＫＰＩとは、Key Performance Indicator（重要業績評価指標）の略で、目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

項目	必要な取組	ＫＰＩ
歴史・文化・景観と、魅力のＰＲ	○歴史展示の見える化・ストーリー化（日本遺産事業） ○修景の推進（景観に配慮したビニールシートの購入補助等） ○広域連携や関係者連携による観光地経営の仕組みづくり ○メディア等での放映・掲載 ○歴史遺産ネットワーク整備（西明日香など）	・発掘調査の面積（累計） ［現状：240,424m²→H31：256,000m²］ ・村外（国内外）へのプロモーション（講演会・ＰＲ・商談会・物販）の回数 ［現状：16 回→H31：25 回］ ・明日香村観光ポータルサイトページビュー ［現状：3,200 回/日→H31：3,500 回/日］ ・観光入込客数（年度あたり） ［現状：80 万人→H31：88 万人］
来訪者の受け入れ体制	○宿泊可能人数（宿泊施設数）の増加 ○教育旅行の推進 ○外国人対応（多言語化） ○Wi-Fi スポット整備の推進 ○近鉄飛鳥駅前の整備	・宿泊数（民泊含む延べ数） ［現状：1 万 2 千泊（うち民泊約 3 千泊） →H31：1 万 5 千泊］ ・外国人観光客数（計測方法を検討） ［現状：不明→H31：5 万人］ ・屋外 Wi-Fi 設置数 ［現状：0 基→H31：10 基］

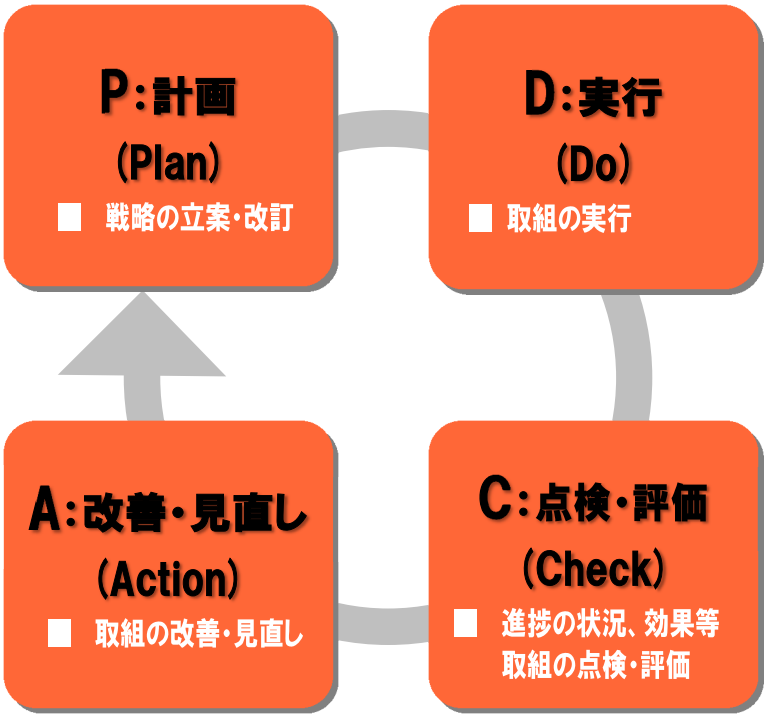
３　点検・評価・改善などのＰＤＣＡのしくみ

（１）点検・評価・改善などのＰＤＣＡのしくみ

・総合戦略を構成する３大目標の下に位置付けられる具体的な９項目には、それぞれ「ＫＰＩ」を設定しています。

・これらの「ＫＰＩ」の達成状況を、村役場の地方創生担当部門が中心となって毎年度１回以上定期的に確認することで、取組の進捗・成果を検証します。

・特に社会情勢の変化に対応するため、総合戦略の３大目標を効果的に実現できるかという観点より、設定した個々の取組やＫＰＩ自体の適否を見直しの対象として、必要に応じて総合戦略の改訂も積極的に行います。



巻末資料

1　策定経緯

年　月　日	内　　容
平成 27 年 3 月～	【明日香村地方創生本部　3 月設立】 ・第 1 回　4 月 27 日(月) ・第 2 回　5 月 27 日(水) ・第 3 回　6 月 16 日(火) ・第 4 回　7 月 21 日(火) ・第 5 回　8 月 17 日(月) ・第 6 回　9 月 28 日(月) ・第 7 回　10 月 27 日(火) ・第 8 回　11 月 19 日(木) ・第 9 回　12 月 15 日(火) ・第 10 回　1 月 27 日(水)
平成 27 年 5 月～6 月	【村役場若手職員による地方創生勉強会　全 3 回】
平成 27 年 8 月 3 日(月)	【第 1 回明日香村総合戦略検討会議】 ○明日香村の今とこれから ○グループディスカッション
平成 27 年 9 月 14 日(月)	【第 2 回明日香村総合戦略検討会議】 ○グループディスカッション
平成 27 年 9 月 17 日（木）	第 1 回議員懇談会　意見交換
平成 27 年 11 月 9 日(月)	【第 3 回明日香村総合戦略検討会議】 ○明日香村人口ビジョン・総合戦略（素案）について ○今後の進め方について（グループワーク）
平成 27 年 12 月 16 日（水）	第 2 回議員懇談会　意見交換
平成 28 年 1 月 4 日(月) ～平成 28 年 1 月 21 日(木)	【パブリックコメントの実施】
平成 28 年 2 月 4 日（木）	第 3 回議員懇談会　意見交換

２　明日香村総合戦略検討会議委員名簿

(順不同、敬称略)

氏　　名	所 属 ・ 役 職 等	備　　考
指宿　洋一	村民参加者	
井本　千尋	村民参加者	
奥原　光佐子	村民参加者	
尾崎　久泰	村民参加者	
小田　泰幸	村民参加者	
欠瀬　美江	村民参加者	
勝川　喜仙	村民参加者	
香束　有人	村民参加者	
竹上　一清	村民参加者	
辰巳　惠規	村民参加者	
玉井　章進	村民参加者	
樽井　一樹	村民参加者	
成田　剛	村民参加者	
福井　香	村民参加者	
福井　美恵	村民参加者	
細川　弥恵	村民参加者	
前川　和夫	村民参加者	
前田　忠信	村民参加者	
松岡　剛宏	村民参加者	
光安　知惠子	村民参加者	
浅山　友造	明日香村総代会 会長	
境山　正甫	明日香村文化協会 会長	
上林　寛和	近畿日本鉄道株式会社 観光事業統括部企画調整部長	
中西　裕仁	奈良交通株式会社 経営戦略室次長	
野戸　久博	株式会社南都銀行 明日香支店長	平成 27 年 9 月 30 日迄
乾　岩和	株式会社南都銀行 明日香支店長	平成 27 年 10 月 1 日以降
関口　和哉	読売新聞大阪本社 編集委員	
赤司　研介	株式会社シーズクリエイト naranara 編集長	
永尾　康男	ハローワーク大和高田 次長	
吉浦　慎治	奈良県南部東部振興課 課長補佐（地域支援員）	
井之上　総平	奈良県南部東部振興課 主事（地域支援グループ）	
下田　正寿	明日香村商工会	